

『大塩が生んだ世界の清風』と

大塩公民館保存の「大花瓶」

五月十五日(土)「汐の里」において立命館大学の前崎信也先生による、大塩出身で陶芸界の第一人者 三代清風与平と大塩公民館保存の「大花瓶」のご講演がありました。先生のお話を中心に、近代日本の陶芸家(中ノ堂一信著)を参考にして、「三代清風」と「大花瓶」についてお知らせいたします。

三代清風与平

明治時代、日本陶芸界の第一人者で、本名は岡田平橋、当時の播磨国印南郡大塩村に嘉永四年(1851年)画家でもあった岡田良平(号・得鳳)の次男として生まれる。家は代々醤油の醸造を営み「眞瀆屋」といった(東ノ丁)。岡田家は儒家の家系で、甥には、町民学者として有名な岡田播陽、播陽の息子に直木賞作家の岡田誠三を輩出している。

〔幼年・少年時代〕

十三歳まで大塩で育ったが、同世代の子供と違って幼少の頃から読書や絵を描くことを好み、塩田では花や魚を見れば竹片で平砂に絵を描き、土や泥をこねているような形を作るのを無上の楽しみとしたという。文久三年十三歳の時に文人画で有名な大阪の田能村小虎の門に入り、絵を学ぶ。このようにな有名な画家に入門出来たのも、父良平(得鳳)も丸山派の画家として かなりの力があつたものと思われる。

〔清風家へ養子〕

慶応二年、十六歳の時、京都清水五条坂の清風家の養子となり、陶磁器の製作をはじめめる。養子に入った経緯は、

「私の十六歳のとき、同郷人で田中と申し、陶磁器の商売をして常に京都へ往来しており、ふと私の宅へ参つて申しますには、京に清風といふ名高い陶工があつて、その家で絵画や陶器の好きな子があつたら、養子にしたいと望んでいるが、このご次男をおやりになつてはどうかということ、そこで私も行ってみようと思ひ、父も承知しまして、同年田中について京都に上り、清風家の養子となりました。」(黒田天外「清風与平氏」)

陶芸に素人だった与平は、陶磁の業を学ぶに、夏期は休憩の時間を以つてし、冬期は夜を以つてこれに充て、ほとんど寝食を忘れ、夜更けに至るまで精励し余念なし」と器地の製作、焼窯の方法を懸命に学んでいます。一方では、作陶の原料となる土石を探索し、釉の研究分析を繰返す日であつたという。

だか「三代清風与平時代」

明治五年、二代与平の妹「くま」と結婚、明治十三年、三代清風与平を襲名。三代を襲名してからは、国内外の博覧会・展覧会で入賞を重ね、明治二十六年、陶芸界から四十二歳の若さで初の帝室技芸員(後の人間国宝)に任命される。そして明治二十八年これも陶磁界での初の緑綬褒章を受章している。パリの万国博覧会に出席、名誉受賞はじめ、内国勸業博覧会で妙技一等賞受賞。各博覧会の審査員、設立委員になり、陶磁器業界で名実ともに明治期を代表する美術家となつた。大正三年没。六十三歳。

《清風の作品・作風など 次回に続く》

大塩公民館の「大花瓶」に出席依頼

愛知県陶磁資料館(瀬戸市)開催の

【明治の人間国宝】特別企画展に、三代清風与平代表作として強い出典依頼があり、連合自治会了承のもと出典すること決まりましたのでお知らせします。会期十月二日、十一月二十八日

岡田良平 (得鳳)

岡田良太郎 (陽明学者 著作多数)

りえ

岡田誠三 (直木賞作家)

三代清風与平

清風くま (たま)

『どべら会』からのお知らせ

一区 七月 七日(水)

二区 七月 二十一日(水)

十時三十分より十一時三十分

なおふれあい給食は

七月八日(木)です。

近大姫路大学 『まちの寺小屋師範塾』の受講生を募集します!

7月19日(海の日)から、近大姫路大学において5回シリーズで始まります。夏休みを利用して親子または祖父母と孫など家族で参加し、地域の文化や伝統を通じて、子育て支援の意義など体験的に学び考えてみませんか。場所は 近大姫路大学

1回目 日時 7月19日(月)(海の日) 13:30~15:30

テーマ:七夕飾りとユカタ 長濱正宏氏、大塩町自治会女性部 御津童謡唱歌を歌う会 大村由美子氏 東たつ子氏

2回目 日時 7月26日(月) 13:30~15:30

テーマ:大塩の方言 大塚岩男氏 絵本の読聞せ 秋山加代子氏 徳島大学看護学専攻教授 郷木義子氏



日時 7月28日(水) 10時~
場所 ふれあい広場「汐の里」
自治会女性部子育て支援(のじぎくキッス)の集い

自治会女性部 子育て支援

日時 7月28日(水) 10時~
場所 ふれあい広場「汐の里」